

## 我が国の「大学体育」の基本理念とカリキュラム

鍋倉賢治, 遠藤卓郎, 大高敏弘, 進藤正雄, 嵯峨 寿,  
松元 剛, 谷川 聡, 福田 崇, 吉岡利貢, 武田丈太郎,  
村瀬陽介, 山田永子, 宮下 憲

### The relationship between curriculum and philosophy of physical education at Japanese colleges and universities

Yoshiharu NABEKURA, Takuro ENDO, Toshihiro OHTAKA,  
Masao SHINDO, Hitoshi SAGA, Tsuyoshi MATSUMOTO,  
Satoshi TANIGAWA, Takashi FUKUDA, Toshitsugu YOSHIOKA,  
Jotaro TAKEDA, Yosuke MURASE, Eiko YAMADA, Ken MIYASHITA

#### 【背景】

社会構造の変化に伴って、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつある。たとえば18歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来。あるいは、行財政システム・スリム化の一環とされる国立大学の独立法人化。これ以外にも様々な要因が加わり、大学間の競争はますます激化している。さらに大学に求められる役割も従来のマスコ教育を通じた「均質的で基礎学力に優れた人材の大量供給」から、カリキュラムの実質化による「創造的で即戦力となる人材供給」へと変化しつつある。「知の競争時代」と言われる今日、大学にはまさに学生を教育する力（教育力）が問われており、教養教育としての体育（大学体育）も同様である。

#### 【目的】

本研究では、我が国における他大学における「大学体育」の教育理念やカリキュラムについて

を調査し、大学の規模や種別の特徴、教育理念とカリキュラム（ここでは教材）の相互関係を見だし、筑波大学が目指す「大学体育」の教育理念とカリキュラムモデルを再構築するための基礎的資料としたい。

#### 【方法】

##### 1) 調査対象

「大学体育」を開講する全国の88大学（学部）を対象とした（表1）。

表1 対象大学（単位：校）

設置	総合大学	単科大学	計
国公立	29	13	42
私立	34	12	46
計	63	25	88

##### 2) 調査方法

各大学の公式webサイト、学生用履修要覧などに掲載された以下の情報について収集した。

表2 理念で抽出したキーワード

健康	体力	思考/判断/ 知識	社会性	生涯スポーツ	スポーツ	こころ	セルフ マネジメント
保健体育	身体	自己認識	コミュニケーション	ライフスタイル	ルール	メンタルヘルス	自己表現
健康科学	運動能力	論理的思考	マナー	高齢化社会	スポーツ	心身の健康	身体表現
自己管理	身体運動	科学的知識	道徳性	生活習慣病	技術		
健康管理	運動		社会的スキル	余暇社会	運動技能		
			人格形成	生きがい	身体技法		
			人間関係	楽しみ	スポーツ文化		
			相互理解	自己実現			
			人的交流				
			協調性				
			人間力				

すなわち、①科目の位置づけ（必修/選択/自由など）、②科目名、③開講種目及び④「大学体育」の理念や目標、であった。

### 3) 理念の分類

収集した各大学の「大学体育」の教育理念からKJ法によって、表2に示す8項目のキーワードを抽出した。

## 【結果と考察】

### 1) 「大学体育」の開講形態

大学体育の開講区分は表3の通りである。86%の大学で大学体育は「必修」科目として開講されていた。なお、選択必修は「必修」科目として分類した。また、国公立と私立の間でこの傾向に有意差はなかった。一方、学生数の多い大学ほど、選択科目としての開講が多くなる傾向が認められた(表4)。

表5は科目の中身について分類したものである。「実技」科目を実施している大学は、全体の81%、「講義」は58%、「演習」は34%となった。また、このうち実技科目のみを開講している大学は18校(24.3%:国公立11校,私立7校)に上った。同様に、「演習」科目のみを実施している大学は10校(13.5%:国公立4校,私立6校)であり、「講義」科目のみの実施大学はなかった。

表3 大学体育の開講区分(単位:校)

設置	必修	選択	計
国公立	13	1	14
私立	13	3	16
計	26	4	30

表4 学生規模別の開講区分(単位:校)

学生規模	必修	選択	計
5,000人未満	11	1	12
10,000人未満	10	0	10
10,000人以上	5	3	8
計	26	4	30

表5 開設形態(単位:校)

設置	大学数	実技(%)	講義(%)	演習(%)
国公立	39	34(87.2)	23(59.0)	9(23.1)
私立	35	26(74.3)	20(57.1)	16(45.7)
計	74	60(81.1)	43(58.1)	25(33.8)

### 2) 開講科目の傾向

表6は、教材として用いられている科目(種目)の上位21種目を国公立と私立の別に示した(巻末の資料も参照)。なお、各種目は、文部科学省学習指導要領に沿って、個人種目、武道、野外運動、ダンス・舞踊、フィットネス、ニュースポーツそして4つの球技型(ネット型、ゴール型、ベースボール型、ターゲット型)に分類した。ネット型のバドミントン及びテニス、各81%の実施率を占め、特に私立大学で

表6 開講種目（教材）

※：p < 0.05

順位	科目名	全体	国公立	私立	分類			
1	バドミントン	50	81%	22	69%	28	93%	※ネット型
2	テニス	50	81%	22	69%	28	93%	※ネット型
3	バスケットボール	49	79%	23	72%	26	87%	ゴール型
4	バレーボール	48	77%	23	72%	25	83%	ネット型
5	ソフトボール	46	74%	24	75%	22	73%	ベースボール型
6	サッカー	44	71%	23	72%	21	70%	ゴール型
7	卓球	41	66%	19	59%	22	73%	ネット型
8	フィットネス・トレーニング	37	60%	20	63%	17	57%	フィットネス
9	ゴルフ	36	58%	15	47%	21	70%	ターゲット型
10	ニュースポーツ	23	37%	14	44%	9	30%	ニュースポーツ
11	フットサル	23	37%	11	34%	12	40%	ゴール型
12	スキー	22	35%	7	22%	15	50%	※野外
13	エアロビ	20	32%	13	41%	7	23%	フィットネス
14	アウトドア	17	27%	10	31%	7	23%	野外
15	水泳	16	26%	10	31%	6	20%	個人
16	ダンス	16	26%	9	28%	7	23%	ダンス・舞踊
17	剣道	16	26%	7	22%	9	30%	武道
18	柔道	15	24%	6	19%	9	30%	武道
19	フライングディスク	13	21%	4	13%	9	30%	ターゲット型
20	ジョグ&ウォーク	12	19%	8	25%	4	3%	フィットネス
21	ハンドボール	10	16%	3	9%	7	23%	ゴール型

の実施率は91%に達した。

10の種目群の実施割合を示したのが、図1である。全体的には、ネット型球技、ゴール型球技、フィットネス、野外、ベースボール型球技、ニュースポーツ、ターゲット型球技、武道、ダンス、個人種目の順であった。私立大学では、ネット型及びターゲット型の球技が国公立よりも多く、反対に国公立大学ではフィットネスやニュースポーツが多い傾向が認められた。

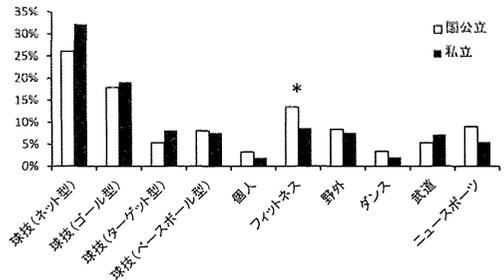


図1 種目群の実施割合 (%)

図2は各大学で開設している実技種目の多様性を示したものである。平均すると、12.8種目を開講し、私立大学では15種目以上実施している大学も、逆に9種目以下の大学も多く、国公立に比べて両極端であった。

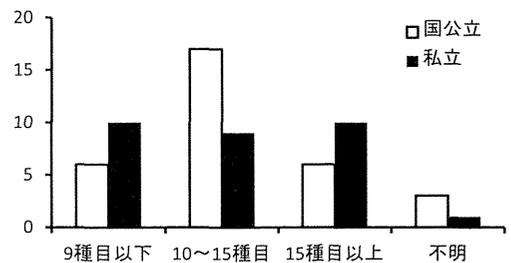


図2 各大学で実施している実技種目数 (単位:校)

### 3) 大学体育の理念

大学体育の理念について、全体的な傾向を俯瞰するために、キーワード分析を行った。すなわち、表2に示した8つのキーワードを、各大学の「体育の理念」から抽出した。その結果が

表7である。「健康」を掲げる大学が80%と最も多く、次いで「体力」(68%)、「思考/判断/知識」(56%)、「生涯スポーツ」(44%)、「社会性」(41%)、「スポーツ」(37%)、「こころ」(37%)と続き、「健康」を掲げる大学が圧倒的に多い一方、大学体育の理念として多岐にわたる目標が掲げられている様子も明らかとなった。また、「セルフマネジメント」(7%)を掲げる大学は少なかった。国公立と私立で有意な差はなかったが、国公立は、「健康」、「思考/判断/知識」、「生涯スポーツ」、「こころ」で多く掲げられ、私立大学では「体力」、「スポーツ」が多い傾向が認められた。

表7 大学体育の理念として抽出されたキーワード (単位:校)

	国公立 N=24	私立 N=17	計 N=41
健康	21 (87.5)	12 (70.6)	33 (80.5)
体力	15 (62.5)	13 (76.5)	28 (68.3)
思考/判断/知識	16 (66.7)	7 (41.2)	23 (56.1)
生涯スポーツ	13 (54.2)	5 (29.4)	18 (43.9)
社会性	9 (37.5)	8 (47.1)	17 (41.5)
スポーツ	7 (29.2)	8 (47.1)	15 (36.6)
こころ	10 (41.7)	5 (29.4)	15 (36.6)
セルフマネジメント	2 (8.3)	1 (5.9)	3 (7.3)

図3は、各大学の理念の中で用いているキーワードの数と大学数を示したものである。全体に、3~4つのキーワードを用いており、国立大学ほど、用いているキーワードが多い傾向が明らかとなった。

#### 4) 大学体育の理念と教材の関係

大学体育の理念を達成するために、実技科目としてどのような教材を用いているかその関係性を検討した。図4は、キーワードに「健康」を含む大学と含まない大学で実施している教材に差があるかを検討したものである。理念に「健康」を含まない大学では、ニュースポーツの実施率が有意に高かった。

同様に、図5は「体力」との関係を示してい

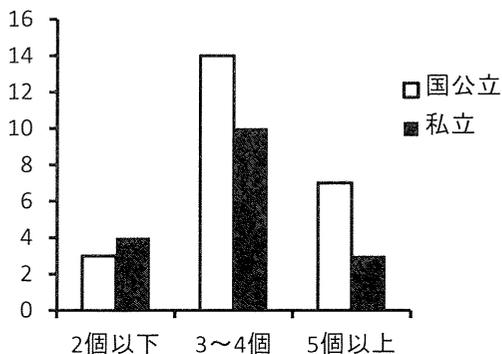


図3 大学体育の理念として抽出されたキーワードの数 (単位:校)

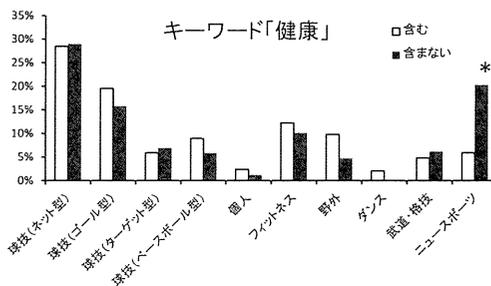


図4 キーワードの有無と実施種目の関係: 健康

る。ここでは、理念に「体力」を含む大学では、ネット型球技の開講が有意に高かった。次に「スポーツ」との関係では、スポーツを含まない大学で、武道・格技の実施率が有意に高かった(図6)。同様に、「思考/判断/知識」、「生涯スポーツ」、「社会性」、「スポーツ」、「こころ」についても検討したが、明確な差は認められなかった。

#### 【まとめと今後の課題】

##### 1) まとめ

全国88大学の公式ホームページ、学生履修要覧などから、大学体育の理念、カリキュラム(教材)などを調査した。その結果、以下のことが明らかとなった。

- ①「大学体育」として実技を行っている大学は8割を超え、8割以上の大学で「大学体育」は

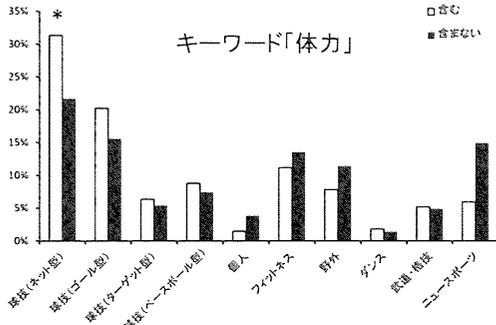


図5 キーワードの有無と実施種目の関係：  
体力

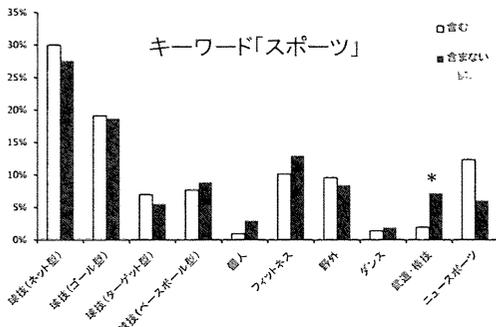


図6 キーワードの有無と実施種目の関係：  
スポーツ

必修単位として認定されている。

- ②実技科目（種目）として、多くの大学でネット型球技が開設されていた。
- ③「大学体育」の理念として、「健康」や「体力」を掲げる大学が多い。
- ④一方、理念と教材（実技開設科目）の間には、明確な関係性が認められなかった。

## 2) 研究の限界や今後の課題

カリキュラムとの関係性を検討する前段階として、今回は科目（教材）名のみを指標にした分析である。また、分析は実技科目に限った。このことは、理念によっては、講義や演習によってより学習課題が達成できる場合もあり、今後検討の必要性がある。

その他にも、大学体育の理念など、必ずしもwebや履修要覧等の資料からはつかみきれな

資料：開設種目一覧

		全体		国立		私立	
1	バドミントン	50	81%	22	69%	28	93%
2	テニス	50	81%	22	69%	28	93%
3	バスケットボール	49	79%	23	72%	26	87%
4	バレーボール	48	77%	23	72%	25	83%
5	ソフトボール	46	74%	24	75%	22	73%
6	サッカー	44	71%	23	72%	21	70%
7	卓球	41	66%	19	59%	22	73%
8	フィットネス・トレーニング	37	60%	20	63%	17	57%
9	ゴルフ	36	58%	15	47%	21	70%
10	ニュースポーツ	23	37%	14	44%	9	30%
11	フットサル	23	37%	11	34%	12	40%
12	スキー	22	35%	7	22%	15	50%
13	エアロビ	20	32%	13	41%	7	23%
14	アウトドア	17	27%	10	31%	7	23%
15	水泳	16	26%	10	31%	6	20%
16	ダンス	16	26%	9	28%	7	23%
17	剣道	16	26%	7	22%	9	30%
18	柔道	15	24%	6	19%	9	30%
19	フライングディスク	13	21%	4	13%	9	30%
20	ジョグ&ウォーク	12	19%	8	25%	4	13%
21	ハンドボール	10	16%	3	9%	7	23%
22	スノーボード	9	15%	5	16%	4	13%
23	ラグビー	9	15%	4	13%	5	17%
24	水辺	8	13%	5	16%	3	10%
25	野球	8	13%	3	9%	5	17%
26	空手	7	11%	4	13%	3	10%
27	リクリエーション	7	11%	2	6%	5	17%
28	ヨガ	6	10%	4	13%	2	7%
29	陸上	6	10%	1	3%	5	17%
30	ダイビング	5	8%	4	13%	1	3%
31	ボウリング	5	8%	4	13%	1	3%
32	弓道	5	8%	2	6%	3	10%
33	体操	5	8%	2	6%	3	10%
34	太極拳	5	8%	1	3%	4	13%
35	アーチェリー	5	8%	1	3%	4	13%
36	マリンスポーツ	4	6%	2	6%	2	7%
37	合気道	4	6%	0	0%	4	13%
38	スケート	4	6%	0	0%	4	13%
39	舞踊	3	5%	2	6%	1	3%
40	トランポリン	3	5%	2	6%	1	3%
41	アダプテッドスポーツ	3	5%	2	6%	1	3%
42	サイクリング	3	5%	1	3%	2	7%
43	ウェルネス	2	3%	2	6%	0	0%
44	ユニホック	2	3%	1	3%	1	3%
45	コンディショニング	4	6%	1	3%	3	10%
46	フライングフットボール	2	3%	0	0%	2	7%
47	ホッケー	2	3%	0	0%	2	7%
48	アルティメット	1	2%	1	3%	0	0%
49	馬術	1	2%	0	0%	1	3%
50	バレー	1	2%	0	0%	1	3%
51	格技	1	2%	0	0%	1	3%
52	水球	1	2%	0	0%	1	3%
53	インラインスケート	1	2%	0	0%	1	3%
54	ボクシングフィットネス	1	2%	0	0%	1	3%
55	コアピクス	1	2%	0	0%	1	3%
56	カヌー	2	3%	0	0%	2	7%

かったこと、単位数など、学部によって異なる例が多く、全容を把握できなかった点、筑波大学を調査対象に含めていない点、などが挙げられた。